

令和 8 年度 京都大学一般選抜
解 答 又 は 解 答 例 等 及 び 出 題 意 図

地 理 歴 史 （世界史探究）

- ・一義的な解答例等を示すことが適切でない問題については、出題意図のみを示しており、解答例等を示したとしてもあくまでも 1 つの解答例であり、これに限られません。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般選抜学生募集要項に記載のとおりです。
- ・「解答又は解答例等及び出題意図」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

令和8年度 世界史 出題意図

I.

図や表から読み取れる情報も手がかりとしながら、第一次世界大戦を背景として進んだ中国の工業化の様相について説明することを求めた。あわせて、そうした工業化による中国社会の変化のもと、政治的な動きにどのような変化が生じたのかについて把握できているかを問うた。

II.

A

- (1) ホラズム・シャー朝
- (2) ワールシュタットの戦い
- (3) 支配者
- (4) クライシュ族
- (5)-㊦フラグ
- (5)-㊩モンゴル軍が異教徒であることを強調した
- (6) ペルシア語
- (7) ブワイフ朝
- (8) バヤジット1世
- (9) サマルカンド
- (10) 遊牧ウズベク
- (11) ジズヤ
- (12) イスマーイール1世
- (13) イェニチェリ
- (14) アッバース1世

B

- (15) イネ（稲でも可）
- (16) 鉄
- (17) 放伐
- (18) 南朝の陳を征服するため
- (19) 黄河と淮河（淮水でも可）

- (20) 新羅
- (21) 李淵
- (22) 楊貴妃
- (23) 蘇湖 もしくは 江浙
- (24) 木版印刷術
- (25) 清明上河図
- (26) 契丹 もしくは キタイ
- (27) 『中庸』
- (28) ジャムチ
- (29) 三藩の乱

III.

両大戦間期に出現した「大きな国家」の代表例といえる、五カ年計画期のソ連、ナチ体制下のドイツ、ニューディール期のアメリカについて、それぞれの経済政策・経済体制と政治的自由・人権保障のありようを概念的に理解できているか、そしてそれらの間の異同を説明できるかを問うた。

IV.

A

- a キケロ
- b モンテーニュ
- c アリストテレス

- (1) ダレイオス 1 世
- (2) 聖職者と一般信徒の区別を否定し、信徒がみずから聖書を読むことで真の信仰を得られるという考え。
- (3) ペリクレス
- (4) ランケ
- (5) ザマの戦い
- (6) ネロ (帝)
- (7) ヴィルヘルム 2 世
- (8) インドをはじめ世界各地に植民地を拡大した大英帝国のエリート層は、自身の帝国と古代のローマ帝国を同一視しながら、タキトゥスとは異なり、そこでの文明化を

肯定的に評価した。

(9) ラス=カサス

B

(10) エチオピア

(11) ケープ植民地

(12) 予定説

(13) ベルギー

(14) ダーウィンの進化論を人間社会に適用し、「適者生存」「優勝劣敗」の原理に即して人間社会の進化を説明する。

(15) 太平天国の乱

(16) ファショダ事件

(17) 日本

(18) ドイツやイタリアとの対立を深め、より大規模な戦争を誘発することを避けるため。ドイツに対する宥和政策を追求していたため。

ソ連を警戒し、その影響下にある政権がスペインに存在することを歓迎できなかったため。等

(19) トランスヴァール共和国、オレンジ自由国

(20) 自治領は本国イギリスと対等の地位をもつこととされ、内政・外交ともに自立的に政策を遂行する権利を得た。

(21) イタリア=トルコ戦争

(22) エンクルマ